

本単元で独創性を育む姿

三人で考えた作戦を実行する楽しさを実感し、より多くの対戦相手と
試合のかけひきを楽しもうと新たな作戦を生み出す子ども



見 つ め る

貴文は、3ON3ゲートボールのルールの説明を聞いた後「どんなスポーツなのだろう。早くやってみよう」と言った。そこで教師は、繰り返し試合を行う場を設定した。貴文は、相手よりも早くあがって試合に勝ちたいと思った。そのために、ボールを狙った場所へ正確に打撃し、ゲート通過を重ねることが大切だと考えた。また、正確な打撃を身につけることは、タッチの成功率を上げることにもつながると知り、チームの仲間と打撃の練習を始めた(問いをもつ力)。

貴文は、練習を重ねることで技術を高め、自分一人であることができる回数を増やした。だが、チームの仲間全員が順調にボールを進めることができるとは限らなかった。ゲート通過がうまくいかなかったり、相手に妨害されたりすることで、仲間の進捗に時間差が生まれてくる。自分だけがあがってしまうと、コート内の人数が3対2や3対1となってしまう、相手にとって有利な展開となる。貴文は、チーム全員であることが大切だという3ON3ゲートボールの特性に気づいた。そこで教師は、「試合に勝つためにはどうすればよいか」というテーマで意見交流を行った。すると、「技能を高めるだけでなく、早く進んだ人がタッチを有効に使って味方のボールを進めたり、相手のボールをスパーク打撃でアウトにしたりすべき」などの意見が多くあげられた。個人的な戦略に関する意見がひとつおき出たところで、教師は、チームメイトの得意技を生かして打順を組んでいるチームの子どもを意図的に指名し、打順の工夫ポイントについて焦点化した。貴文は、「一番技術の高い人が最後の打順になり、後からタッチを狙うことで、仲間のサポートをすることができる」という考えに着目した。この考えを自分たちのチームに置き換えて作戦を考える中で貴文は、「仲間の得意技を生かすこと」と「まとめてボールを進めていくこと」が大切だと考えた。そして、「三人で連携し、近いタイミングであがる方法を考えなくてはならない」という問題を見だし、チーム全員で協力して試合に勝つための作戦を追究し始めた(問いをもつ力)。



試しのゲームをする子ども

深 め る

打撃が得意な貴文は、自分が最後の打者となり、仲間をサポートしながら試合を行った。また、先頭をいく仲間が相手の足止め役となり、自分が最終ラインとなって、三人ができるだけまとめてボールを進めていく試合展開を心がけた。作戦を考えた成果もあり、貴文のチームは勝ち星を伸ばしていった。しかし、それとともに、相手ボールにタッチされると、近い位置にいた三人が一度にスパーク打撃でアウトにされてしまうパターンもあることに気づいた。貴文は、簡単に相手にタッチを狙われない場所にボールを置きながら試合を行い始めた。特に、コートのコナーや



三人で連携して試合を進める子ども

中央部など、ゲート通過をするための最短距離を外した場所を軸にして、相手と距離をとることを重視した。しかし、それでは自分のチームがゲート通過や相手を妨害する攻撃面に難点が生まれることがわかった(本質に迫る力)。そこで教師は「試合に勝つためにはどうすればよいか」というテーマのもと、「タッチを受けにくい場所」にスポットをあてて意見交流を行った。

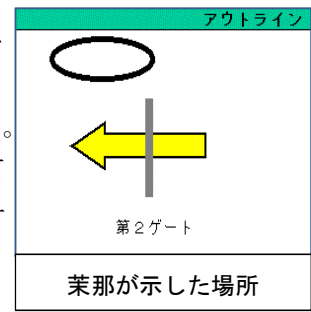
意見交流「試合に勝つためにはどうすればよいか」

教師：タッチを受けにくい場所はどこか。

貴文：僕はとにかく相手と距離をおくことが大切だと思う。コートのコーナーやゲートボールの裏がよい。

茉那：私はゲート横のライン際がタッチを受けにくく、タッチしやすい場所だと思う。仲間も相手も第2ゲート通過を狙ってくる。だからゲート横で待ち構えていて、仲間ならタッチしてゲート通過をサポートし、相手ならタッチしてスパーク打撃でアウトをさせる方法が有効だ。そしたら自分もゲート通過ができる。

教師：茉那さん、ホワイトボードを使って、今の話を図に示してください。(図式化)



茉那が示した場所

貴文は、簡単に狙うことができないように相手と距離をおくとよいという考えを発言した。そこで教師は、攻撃する視点にも着目している茉那を指名した。茉那は、「ゲート横のライン際がタッチを受けにくく、タッチしやすい場所だ」と述べた。更に教師は、茉那の意見を図式化した後、チーム練習の時間を設定した。

貴文のチームは、ゲート横のライン際にボールを集めながら、練習を行っていた。貴文は授業後の日記に、「第2ゲート横のライン際は、相手からタッチを受けにくい。更にゲート通過を狙うボールをタッチし、自分も通過できることがわかった」と書いた。貴文は、「タッチを受けにくい場所を起点として、相手や味方のボールをタッチして試合を展開することが大切だ。もっと対戦相手の幅を広げて、多くの人と試合を楽しんでみたい」と教師に言い、交流の場を求め始めた(差異を把握する力)。

【貴文の考え(交流前)】相手のスパークで大逆転を許してしまった。相手からタッチを受けないように、コーナーやボール裏など、距離をおくとよいと思った。

【新しい見方】
攻撃も含めた視点

【差異に気づく】攻撃する視点にも着目している茉那を指名

【差異を吟味する】茉那の意見を図式化した後、チーム練習の時間を設定

【貴文の考え(交流後)】第2ゲート横のライン際は、相手からタッチを受けにくい。更にゲート通過を狙うボールをタッチし、自分も通過できることがわかった。

つなげる

貴文は、学校内だけでなく、ゲートボールをとおして「地域の人とも交流をしたい」と考え、協会にアプローチした。協会の人もその思いを快く受け止めてくれて、交流戦を行うことになった。3対3のシステムを5対5に修正し、放課後に仲間と練習を始めた(表現する力)。交流戦当日は、高い技術と多彩な戦術をもつ高齢者のチームに試合をコントロールされっぱなしであったが、貴文は、終始笑顔でゲートボールを楽しんでいた。貴文の单元まとめには「これから出会う種目も、仲間と協力してプレイしたり、相手とかけひきを楽しんだりしたい」と書かれていた。



地域の人と交流をする子ども

【貴文の单元まとめ】

ゲートボールは、とても頭を使うスポーツだと感じた。自分が先にあがっても意味がない。一打で勝敗が大きく変わると言っても過言ではない。だからこそ、一打ごとに仲間に声をかけた。お互い声をかけ合うと、「勝ちたい」という思いが更に大きくなった。勝つために役割分担をしたり、相手によって作戦を変えたりして試合を行うことがとても楽しかった。学級リーグの最終戦では、全員があがって勝つことができた。その時の仲間の嬉しそうな顔は忘れられない。きっと本気で作戦を立てたり、練習をしてきたからこそ味わえた達成感なのだと思う。これから出会う種目も、仲間と協力してプレイしたり、相手とかけひきを楽しんだりしたい。

第1学年C組 保健体育科授業案

授業者：馬場 健介

1 単元 一打に想いをのせて『3ON3ゲートボール』（球技・ターゲット型）

2 単元構想

(1) 本単元で独創性を育む子どもの姿

三人で考えた作戦を実行する楽しさを実感し、より多くの対戦相手と試合のかけひきを楽しもうと新たな作戦を生み出す子ども

(2) 教材について

試合を始めた子どもは、ゲート通過やあがりまでの打数を減らしていくことが重要だと考える。しかし、コートに残った仲間の人数が少なくなることで、相手のタッチを受けやすくなり、あがりにくくなることに気づく。そして子どもは、三人ができるだけ近いタイミングであがる方法を追究し始める。3ON3ゲートボールには、仲間をサポートする方法、相手の進路を妨害する方法など、状況に応じてボールの狙いどころが変わり、多彩な戦術が生まれるよさがある。試合に勝つために、三人で役割分担をして試合を進めることが大切だという新しい見方で捉えた子どもは、仲間と臨機応変に作戦を修正し、コミュニケーションをとって共有しながら、あがりを目ざすようになる。

(3) 子どもの思いと教師のでだて

見つめる段階では、教師は、3ON3ゲートボールのルールを説明し、繰り返し試しの試合を行う場を設定する。子どもは、3ON3ゲートボールを経験し、狙ったところにボールを打ってゲート通過したり、相手のボールをスパーク打撃でボールアウトにしたりして、誰でも試合の勝敗に関わることができる楽しさを実感する。また、仲間と協力して打撃の精度を高め、相手よりも早くあがって試合に勝つ楽しさを味わい、チーム全員で上達し、試合に勝ちたいと考えるようになる。だが、試合を繰り返していくと、味方が早くあがることで相手の打数が増え、コートに残っている仲間がスパーク打撃によりボールアウトされることが多くなるという種目の難しさに気づく（問いをもつ力）。そこで教師は、意見交流の場を設定し、先に仲間があがると相手の打撃数が増えてタッチされやすくなるため、試合に勝つための作戦を工夫しなくてはならないと考えている子どもを意図的に指名する。更に教師は、指名した子どもの意見を焦点化して議論をした後、チーム会議の時間を設定する。子どもは、チームの三人があがるタイミングにタイムラグがあると全員があがれないことに気づき、三人が連携して近いタイミングであがる方法を考えなくてはならないという問題を見だし、追究を始める。

深める段階で子どもは、三人が近いタイミングであがるための作戦を考え始める。毎回の打撃でボールの狙いどころをチームで共有したり、仲間のボールをタッチしてスパーク打撃で後押ししたりする攻撃を組み立て始める。また、仲間のボールが遅れ始めたら先に進んでいる人が相手ボールのボールアウトを狙ったり、相手のエースを二人でマークして思いどおりのプレイをさせない作戦を考えたりする。その際教師は、動きを客観的に分析することができるように、ホワイトボードを使い、試合を振り返ることを推奨する。子どもは、お互いのボールの進め方を客観的に観察し、ボールの進め方について考える（本質に迫る力）。更に試合を繰り返していくと、相手のタッチによって考えていた作戦が実行できないことが増え、試合が思うように進められないことに悩み始める。そこで教師は、意見交流の場を設定し、タッチを受けにくい場所がゲート横のライン際にあると考えている子どもを意図的に指名する。子どもは、三人が近いタイミングであがるために進度をそろえることと、相手を積極的にタッチすることに主眼をおいた作戦を考えてきたが、タッチを受けにくい場所を使うことが有効であると気づく。更に教師は、指名した子どもの意見を焦点化して議論した後、チームで作戦を見直す時間を設定する。子どもは、仲間と近い位置でボールを進めるだけでなく、タッチを受けにくい場所を起点として、相手や味方をタッチして試合を展開することが有効であると考え、その作戦を考え始める（差異を把握する力）。

つなげる段階では、教師はより多くの対戦相手を求め、学級外の人とも交流したいと考えている子どもの考えを取り上げる。考えてきた作戦を仲間と実行することに加え、臨機応変に対処しながら優れた展開に進める方法を考える楽しさを実感する（表現する力）。そして、互いに声を掛け合いながら仲間と運動に関わっていくよさを味わっていく。

3 単元構想表 (12時間完了)

段階	主なてだて	思い・考え	よりよい考え	新しい見方
見 つ め る	<p>ルールを説明し、繰り返し、試しの試合を行う 3ON3 ゲートボールの特徴をつかむことができるようにする ●問いをもつ力</p>	<p>小学校での組み体操では、仲間と一緒に演技をつくりあげる充実感を知った</p>	<p>運動は苦手であるが、自分なりに積極的に参加して体育を楽しみたい</p>	
	<p>ホワイトボードを使い、振り返ることを推奨する 試合を客観的に見つけ、勝つための要素や価値に気づくようにする ●本質に迫る力</p>	<p>3ON3 ゲートボールはどんなスポーツなのだろうか。やってみたい</p> <p>1～2時</p> <p>狙いを定めて打ち、ゲートをくぐらせることができる と嬉しい</p> <p>チーム全員であがる ことができると、何とも 言えない一体感があって 楽しい</p> <p>狙って打つことばかり 考えているとラインを越 えてしまうから力の調 節が大切だ</p> <p>チームの仲間と一緒にあがりを目ざして試合をすることはおもしろい。もっと他のチームと試合をして、たくさん勝ちたい</p> <p>3～5時</p> <p>できるだけ次のゲートの正面にボールが止まるように調節して打撃しよう</p> <p>タッチもゲート通過もできなくなるからアウトにはならないようにしよう</p> <p>打つことが得意な仲間は積極的にスパーク打撃をし、相手の打数をかせぎたい</p> <p>自分の打数を増やすことができるので、積極的にタッチを狙っていこう</p> <p>相手よりも打撃の精度を高めて、チーム全体の打数を減らすことが大切だ</p> <p>空間を広く使ってボールを進めていくことで相手に妨害されにくくなる</p> <p>チームの打順を工夫することは試合の勝敗を大きく左右する要因になりそうだ</p> <p>仲間が先にあがっても、味方の人数が減ることで相手のタッチを受けやすくなる</p> <p>一番あがりから遠い仲間のボールに合わせてゲートを通過する作戦が必要だ</p> <p>三人が連携し、近いタイミングであがる方法を考えなくてはいけない【問題】</p> <p>6～10時</p> <p>打つことが得意な仲間が積極的に相手にタッチしてスパーク打撃を狙っていこう</p> <p>毎回の打撃で狙う場所を三人で共有しながら試合を進めていこう</p> <p>仲間のボールが近いところにあると、カバーし合えて優位に試合を展開できる</p> <p>打つことが得意な仲間が味方を積極的にタッチし、仲間のボールを進めたい</p> <p>仲間のボールが遅れ始めたら先に進んでいる人が相手ボールのタッチを狙おう</p> <p>第一ゲート通過後は、コーナーやライン際にボールを進めてタッチをかわそう</p> <p>ゲート通過するための最短コースからずれば、タッチされることは減る</p> <p>相手のエースを二人でマークし、思い通りのプレイをさせないようにしたい</p> <p>第二ゲート横のライン際はタッチされにくく、タッチを狙いやすい場所だ</p> <p>仲間と近い位置でボールを進めていくだけでなく、タッチを受けにくい場所を起点として、相手や味方のボールをタッチして試合を展開することが大切だ</p> <p>11～12時</p> <p>後から相手ボールをマークすることも相手にとっては気になってくる</p> <p>他の学級とも交流戦を行いこれまで考えてきた作戦を使ってゲームを楽しみたい</p> <p>相手の作戦を読み、臨機応変に仲間と役割分担をして相手の打数を稼ぎたい</p>		
深 め る	<p>○意図的に指名する子どもを見てチームを差をつける ○意図的に指名する子どもを見てチームを差をつける ○意図的に指名する子どもを見てチームを差をつける ●差をつける力</p>			
つ な げ る	<p>学級外の人とも交流したい 子どもを取り上げて仲間と戦う楽しさを味わうことができるようにする ●表現する力</p>	<p>仲間と協力して試合をすることの楽しさを知った。学年だけでなく、地域の人ともゲートボールをやってみよう</p>	<p>仲間と作戦を考え、試合に勝てたときは嬉しい。今後も自分ができる役割を見つけて、積極的に運動を楽しんでいきたい</p>	